

平城宮跡歴史公園 第一次大極殿院 南門復原整備工事

特別史跡であり世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つでもある平城宮跡内の**第一次大極殿院**は、奈良時代前半、国家で最も重要な儀式が行われていた空間です。

「第一次大極殿院建造物復原整備計画（平成23年）」により、令和4年3月に「**南門**」が完成しました。

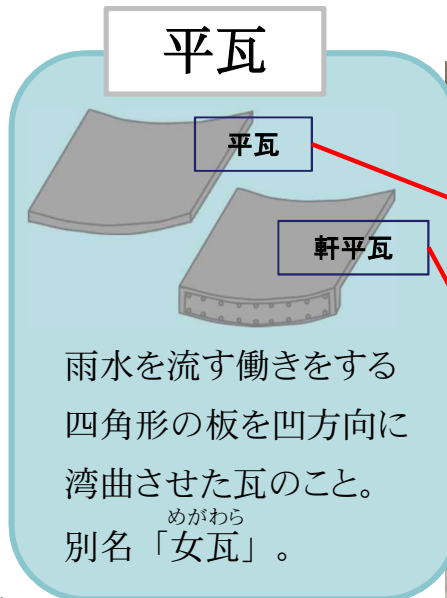


南門は、**第一次大極殿院**の正面入口となる建造物です。発掘調査や時代考証の結果、間口約22.1m、奥行約8.8m、高さ約20.0mの入母屋造の二重門に復原されることが決まりました。

南門復原工事においては、伝統的な材料・工法を用いる基本方針を踏まえ、木材加工や瓦葺き、金物、左官、塗装等に伝統的な工法を採用しています。

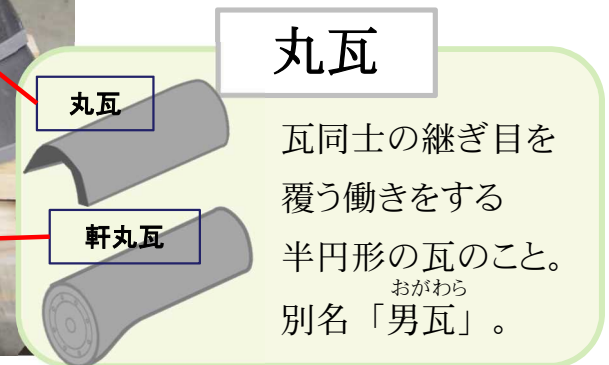
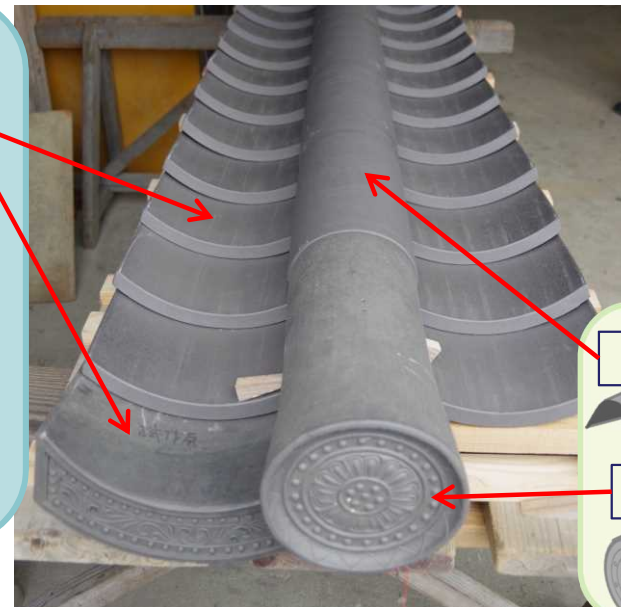
南門復原整備工事の瓦

南門復原では「**本瓦**」と呼ばれる瓦を使用します。「**本瓦**」は「**平瓦**」と「**丸瓦**」の2部材で構成されます。一般の家屋に用いられる瓦は、この2部材が合体した「**棧瓦**」と呼ばれるものですが、今回の工事は復原のため、当時と同じ形の「**本瓦**」を製作しています。



南門の本瓦葺き仮組み→

南門の軒丸瓦と軒平瓦の文様→



取材Photo ～瓦製作の工場長に聞く～



今回使われる瓦のつくり方は？



瓦の原料となる粘土は、主に三河産粘土を使用しています。



原料の粘土から粘土瓦をつくります。粘土を練り、簡単な形状に成形する段階までは機械を使っています。



真空土練機で粘土中の空気が抜かれた粘土瓦は、片手で持ってもたわまないほど硬くなります。



機械では成形できない部分は、職人が手作業で仕上げています。



窯の余熱を利用して粘土瓦を乾燥させます。乾燥すると白っぽくなりこれを白地といいます。



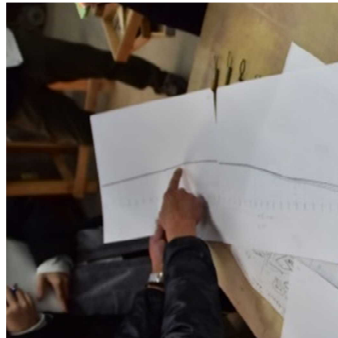
白地をガス窯で焼き上げて瓦の完成です。焼き上がった瓦は、成形段階に比べ約13%小さくなります。



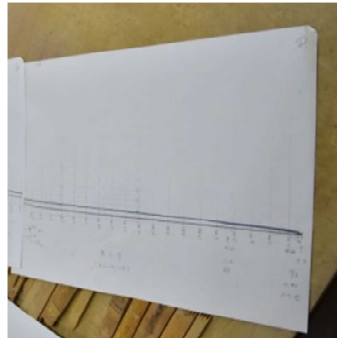
今回使われる瓦の特徴は？



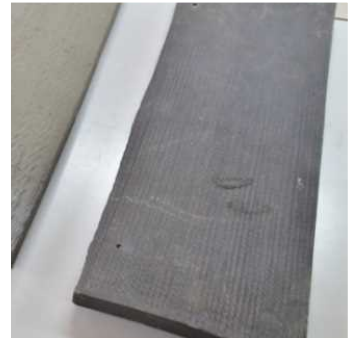
出土した瓦には「布目」と「縄目」がついています。今回は、布をかぶせた台に粘土瓦を置き、縄を巻いた棒で叩くことで、「布目」と「縄目」を再現しています。



出土した瓦の色を再現するために、いぶし瓦の銀色を焼き飛ばしています。焼き上げる工程では、窯の温度と焼き上げる時間の調整が必要のため、グラフにして管理しています。



左からいぶし瓦、いぶし瓦の銀色を焼き飛ばした瓦、暗い色にするために淡路産粘土を塗布して焼き上げた瓦です。今回は、出土した瓦の色に近い中央の瓦の色で復原をしています。



瓦製作に携わる職人の方の紹介① (株)山本瓦工業

※プロフィールは2019年度取材当時のもの



南門 軒丸瓦担当
経験年数21年

岡本 宏さん

「ものを作る仕事がしたい。」

就職活動中、たまたま出会った求人が瓦製作だった。他の仕事と迷った末、ハローワークの担当者からの「瓦製作の方がやりがいがあるんじゃないか」という後押しで決断し、瓦職人の道へ進んだそうだ。

「過去の仕事で印象に残っているのは唐招提寺金堂の瓦製作。」

金堂の瓦は無真空の瓦※で、それまで機械で作っていた作り方とは全く違っていったそうだ。乾燥して固まった土を水に溶いて柔らかくし、鍬(くわ)で耕すように粘土の状態に戻すところから始まる。成型した無真空の瓦は形が崩れやすく、扱いは労力を要する。

「出来たときは嬉しくなった。関わった建物はたまに見に行く。」

■若い人へのメッセージ

「自分がそうだが、気になったらとりあえず入ってみる。若い頃はすぐにやり直しができる。入って困ったことがあれば、周りの人も同じような道を通ってるので助けてくれる。元気いっぱいやれば何とかなる。どんどん挑戦して自分に合うものを見つけて欲しい。」

※無真空の瓦:真空土練機を使わずに作った瓦



南門 軒平瓦担当
経験年数7年

影林
聖大さん

「伝統的な仕事が面白い！」

ハローワークで見かけた求人に書いてあった「瓦製作」という単語が目にとまった。きっかけは「面白そう？」だったが、始めてみると伝統的な仕事が「面白い！」と確信に変わったそうだ。

「完成した建物を見に行くとやってよかったと思う。」

影林さんが印象に残っている仕事は薬師寺東塔の瓦製作。無真空の瓦は、乾燥後にねじれて変形することも多く、大変な仕事だったそうだ。苦勞を乗り越えた分、完成した建物を見たときにはやってよかったと感無量な気持ちになったと言う。

「休みの日は自然に触れる。」

休日は趣味の海釣りに興じるほか、大好きな車を運転することが多いと言う。行き先は山や海。自然豊かなところへ行き、リフレッシュするそうだ。

■若い人へのメッセージ

「興味を持ったり、チャレンジしたいと思うことはやってみることが大事。楽しみながら出来るようになってきたら続いていくのではないかなと思う。」

瓦製作に携わる職人の方の紹介② (株)山本瓦工業

※プロフィールは2019年度取材当時のもの



「形に残るものを作りたい。」

以前は瓦のこともこの会社のことも知らなかったが、偶然出会った山本瓦工業の会長と話をしているうちにこの仕事をしてみたいと決意。「消費されるものではなく形に残るものを作る」という仕事に魅力を感じたそうだ。

「過去の仕事で印象に残っているのは薬師寺東塔の瓦製作。」

この時に作った無真空の瓦は、以前までの瓦製作とは全く違ったそうだ。通常は機械で行う土をこねる工程を手や足で行うため、苦労が伴う。無真空の瓦製作は、1から考えて瓦製作をする難しさがあったと語る。

「何とか乗り越え、完成した東塔の公開に行った。嬉しくて震えた。」

～休日の過ごし方～

休日の過ごし方は主に家族サービス。お寺巡りが多く、息子さんには退屈られるそう。寺本来の美しさや建築様式を見て仕事に励むそうだ。

■若い人へのメッセージ

「若い勢いでチャレンジして欲しい。世の中には色々な仕事があるが、一生懸命にやってみて何かをやり遂げたときに形に残るような仕事は人生において有意義なもので、人生を輝かせる。そこに喜びを感じて欲しい。」



「昔から神社仏閣に興味があった。」

元々神社仏閣を見に行くのが好きだったという植木さんは、10代の頃から宮大工のような職業に興味があった。偶然にもハローワークで目にした瓦製作という求人「似たような職業だ」と興味を持ち、仕事内容を見て「これだ」とぴんときて応募したそうだ。

「このままずっと残るんだろうと思うと達成感は大きい。」

植木さんも、過去の仕事で無真空の瓦の製作には苦戦した思い出がある。高い技術力を求められるこの製法は、機械で瓦を作る際の何倍もの手間がかかる。その分、乗り越えた先にある充実感は計り知れないそうだ。

～これからの楽しみ～

子どもが大きくなったら奈良公園に行ったり、平城宮跡に行ったりして歴史に触れさせてあげたいと嬉しそうな顔で語った。

■若い人へのメッセージ

「何事も最初から無理だと考えずに、一度チャレンジして、やってみて、色々考えながら解決策が導き出せる人になって欲しい。何でもチャレンジしてみたい。」

瓦製作に携わる職人の方の紹介③ 一覧※



瓦製作

企業名	氏名
山本瓦工業(株)	山本 正道(やまもと まさみち)
山本瓦工業(株)	吉川 剛史(よしかわ たけふみ)
山本瓦工業(株)	京極 太郎(きょうごく たろう)
山本瓦工業(株)	岡本 宏(おかもと ひろし)
山本瓦工業(株)	青木 幸一郎(あおき こういちろう)
山本瓦工業(株)	山本 一輝(やまもと かずき)
山本瓦工業(株)	植木 大介(うえき だいすけ)
山本瓦工業(株)	影林 聖大(かげばやし まさひろ)
山本瓦工業(株)	富永 良(とみなが りょう)
山本瓦工業(株)	巽 規雄(たつみ のりお)
山本瓦工業(株)	天野 光男(あまの みつお)

※個人名の掲載を承諾いただいた方のみ掲載しています。